



# ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2017年(平成29年)6月25日号 No.1730

## 目次

■ <b>ロシアの連邦管区別の総生産データ</b> .....	1
<b>一人人口減に苦しむ極東の姿が浮き彫りに</b> .....	
■ 『ロシアNIS調査月報』2017年7月号のご紹介 .....	6
■ <b>キーパーソン</b> .....	7
ウズベキスタン経済担当副首相解任 / 7	
■ <b>トピックス</b> .....	8
ロスネフチがロシア最北海洋で油田発見 / 8	
露ノヴァテクがギダン半島の資源開発権を落札 / 8	

## ロシアの連邦管区別の総生産データ 一人人口減に苦しむ極東の姿が浮き彫りに

### はじめに

ロシア連邦国家統計局は先日、2015年の同国の地域総生産の統計を発表した。地域総生産は国内総生産(GDP)を地域別に(州などのレベル)ブレイクダウンしたもののだが、GDPよりも発表が遅いので、このほどようやく2015年の数字が発表されたというわけである。今回発表された2015年の同統計に関しては、『ロシアNIS調査月報』(2017年7月号)に地域別の詳細データを掲載したので、そちらをご利用いただきたい。本速報においては、地域よりも上のレベルに当たる連邦管区(現時点では8管区が存在する)の地域総生産データに着目し、それを図表にまとめてお届けすることにする。

### データ解説

以下の図表では、ロシアの地域総生産のデータが、現地通貨ルーブルで示されており、参考までに、2015年の年平均レートは、1ドル=60.66ルーブル、1ルーブル=1.99円であった。なお、ロシアによるウクライナ領クリミアの併合は国際的に承認されていないが、以下の図表では南連邦管区の数字にクリミア共和国およびセヴァストポリ市のデータが含まれているので(図表5を除く)、ご注意願いたい。

さて、図表3で、管区別の長期的な経済成長率を跡付けると、極東連邦管区の成長率の低さが際立つ。すなわち、2000年を基点に2015年までの成長率を辿ってみると、この間、極東連邦管区は76.8%しか成長しておらず、ロシア全体の85.6%を下回っているだけでなく、8連邦管区の中で最低